

インドネシアの小さな島に何年も通って作り上げた
この作品を見ていると、美しい映像から吹き出す
石川監督のすさまじいエネルギーにぼくは圧倒される。

——山田洋次(映画監督)

『世界でいちばん美しい村』石川梵監督最新作

くじらと

LAMAFA

JSC(日本映画撮影監督協会)賞
日本映画批評家大賞ドキュメンタリー賞
グアム国際映画祭観客賞

キネマ旬報文化映画ベストテン第2位

くじらと生きる

命を賭けてモリー一本で巨大なマッコウクジラに挑む、インドネシア・ラマレラ村の人々。
壮絶な狩りの背景には、400年に渡り命を繋いできた鯨と人間の魂の物語があった。

エグゼクティブ・プロデューサー: 広井王子 監督・プロデューサー: 石川梵 編集: 熱海鋼一 箕輪広二 撮影: 石川梵 山本直洋 宮本麗

録音: Jun Amanto 音響: 帆刈幸雄 音楽: 吉田大致 *はなとおと* 歌: 森麻季 取録協力: ジャパン・アーツ

映画題字: 山崎秀鶴 Web制作: naga-lab. オフィシャル・サポーター: 山田洋次 関野吉晴 中村征夫 宮崎学 高橋ツトム 石川直樹 安田菜津紀

2021年/ドキュメンタリー/日本/113分/カラー/ビスタ/5.1ch 助成: 文部科学省 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

製作: Bonfilm ©Bon Ishikawa 協力: 広井王子ピクチャーズ Cinema Sound Works 配給: Bonfilm 配給協力: アズミック・エース 宣伝: ミラクルヴォイス <https://lastwhaler.com>

113分

自然とともに生き、 命に感謝し、祈りを捧げる——

“生きること”の本質に触れるドキュメンタリー



観たこともない映像に触れる、
唯一の体験を大画面、大音量のスクリーンで!

くじらと生きる——SDGsの原点がここにある。

インドネシア・ラマレラ村。人口1,500人。インフラも十分でなく作物が育たない土地で、鯨漁が村を支えている。年間10頭獲れれば村人全員が生きていける。

村の誇りであるラマファ(鋸打ち漁師)は、手造りの舟と鋸1本でマッコウクジラに挑んでいく。その姿にあこがれ、ラマファになりたいと夢見る子供たち。実に400年もの間変わらぬ伝統の捕鯨を続けながら、互いの和を最も大切なものとして支え合って暮らす“くじらびと”。

2017年ロングランヒットした『世界でいちばん美しい村』でネパール大震災後懸命に生きる人々を捉えた写真家であり映画監督の石川梵。本作は30年という長い時間

をかけて村人との信頼関係を築き、2017年から2019年までの3年間に撮影された。今回、世界で初めてラマレラでの鯨漁の空撮と水中撮影に成功!ドローンやGoProによる海中の鯨の様子や、鯨に体当たりされる舟、生き死にと常に隣り合わせの漁師たち。その臨場感はスクリーンを超えて見るものに迫ってくる。

コロナ禍で急激に生活スタイルが変化する現代社会。持続可能な世界(SDGs)を模索する今、本作品が描く、厳しくも美しい命のやりとりが胸に迫る。眩しいほどの生命力に満ち“生きること”の本質に触れるドキュメンタリー。大迫力の映像を大画面、大音響のスクリーンで体験ください!



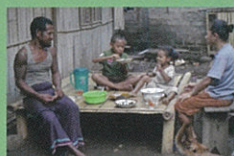
この映画は
「海人」伝説の写真集
(現在絶版)の映像化

関連書籍

鯨人
石川梵:著
(集英社新書刊)



くじらの子
石川梵:写真・文
宮本麗:写真
(少年写真新聞社刊)



エグゼクティブ・プロデューサー: 広井王子 監督・プロデューサー: 石川梵 2021年/ドキュメンタリー/日本/113分/カラー/ビスタ/5.1ch
製作: Bonfilm ©Bon Ishikawa 配給: Bonfilm 配給協力: アスミック・エース 宣伝: ミラクルヴォイス 公式サイト: <https://lastwhaler.com/>
映画「くじらびと」 @kujirabito1 @kujira_bito YouTube 映画「くじらびと」公式チャンネル



公式サイト

facebook

東京都写真美術館1Fホール 石川梵監督x宮崎学(写真家)(10月4日 2回月上映後)

2022.9.27(火)ー10.14(金) 休映日 1回目13:00
10月3日、6日、11日 2回目15:20

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 TEL 03-3280-0099

など豪華ゲストとアフタートーク有り
スケジュールはHPで

<https://topmuseum.jp/>

